

リバーサイド地区の河道計画の比較

		河床掘削	パラペット高上げ	引堤（左岸：青葉台側）	引堤（右岸：リバーサイド側）
計画概要	考え方	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画に対する計画流量（河積）の増大を河床掘削のみで対処する案。 ・大規模な河床掘削（掘削深さ）が必要になる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画に対する計画流量（河積）の増大をH.W.L.変更（上昇）で対処する案。 ・H.W.L.変更はパラペットの設置で対処する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画に対する計画流量（河積）の増大を最小限の河床掘削（最大でも工実河床程度まで）と左岸側（青葉台側）への河道拡幅で対処する案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現計画に対する計画流量（河積）の増大を最小限の河床掘削（最大でも工実河床程度まで）と右岸側（リバーサイド住宅側）への河道拡幅で対処する案。
	水理上の特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時の流況はほぼ現状同様と想定されるが、水深は10m程度にも及ぶ流れとなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水時の流況は左案同様であるが、H.W.L.変更（上昇）によって災害ポテンシャルは増大する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道拡幅により流速が低下する。 ・リバーサイド住宅下流端左岸側（青葉台側）の側岸掘削（河道拡幅）が必要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道拡幅により流速が低下する。 ・リバーサイド住宅下流端左岸側（青葉台側）の側岸掘削（河道拡幅）が必要となる。
	環境	<p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当地区の下流及び上流域には、サツキなどの希少植物の生息が確認されている。 ・これらの植物は、特に下流突出岩部に多く生息しており、流速の変化に影響されやすい。 ・ダイナミックな溪流景観を呈している。 <p>計画上の配慮事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・河床が低下するためサツキなど植物の冠水頻度が減少する。 ・計画策定にあたっては、現存している環境・景観の状況を十分に考慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への影響は少ないと考えられるが、計画策定にあたっては、現存している環境・景観の状況を十分に考慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道拡幅はサツキなどの植物に影響を与える可能性がある。 ・計画策定にあたっては、洪水時の流れの変化が植物に与える影響が極力少なくなるような工夫が必要である。 ・また、現存している環境・景観の状況を十分に考慮する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・河道拡幅はサツキなどの植物に影響を与える可能性がある。 ・計画策定にあたっては、洪水時の流れの変化が植物に与える影響が極力少なくなるような工夫が必要である。 ・また、現存している環境・景観の状況を十分に考慮する必要がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・河道内に存在する中国縦貫道橋脚フーチングが露出する可能性が高く、橋梁の安全性確保の点で橋脚改築（場合によっては橋梁改築）が必要となる。 ・河床の硬岩を多量に掘削するため、長期間にわたり騒音が発生する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・H.W.L.の変更（上昇）は、これまで被災履歴のない左岸青葉台地区の災害ポテンシャルも増大する。 ・パラペットは自立式の大規模構造物となり、工事費が高くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで被災履歴のない青葉台側への河道拡幅・家屋移転が必要となる。 ・左岸側は堤内地盤高が高いため、河積の拡大には寄与しないH.W.L.より上部の掘削量が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで地元で説明してきた案（河床掘削案）よりさらなる引堤となり、移転家屋数が増加する。 	